

2009(平成21)年5月20日

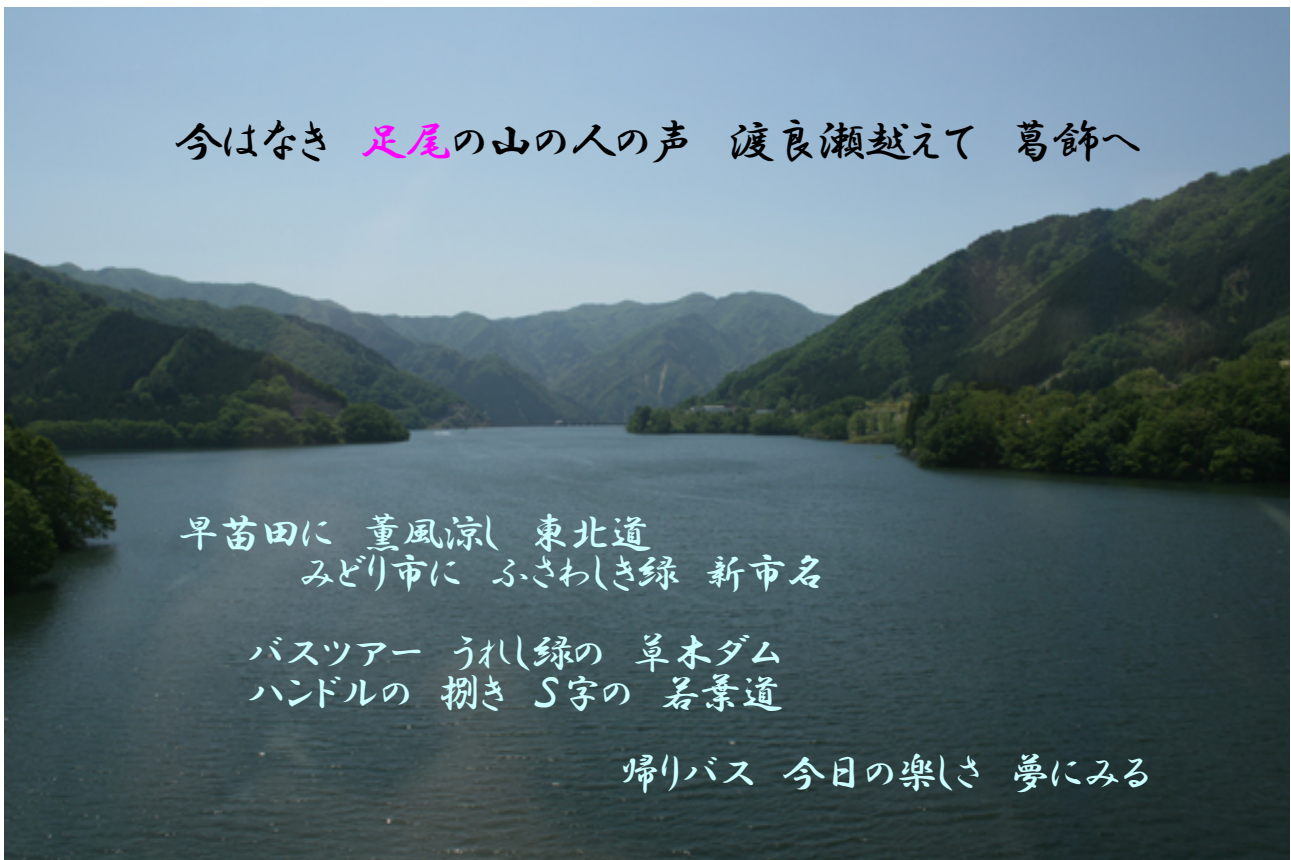
館外講座だより4



今回のバスツアーは、昨年とコースを代え、桐生から渡良瀬川を北上しながら源流部である日光市足尾町を訪れました。

昭和22年(1947)9月のカスリーン台風は、利根川同様、渡良瀬川流域にも大きな被害をもたらしました。その原因は、足尾銅山の採掘に伴って発生した自然環境破壊でした。加えて、明治中期に始まる足尾鉍毒事件は、大きな社会問題となり、現在の渡良瀬遊水地へと引き継がれています。私たちを水害から守るため、緑なす美しい足尾の山々で今なお継続している自然と人間の相克を、このツアーで体感してください。

今はなき 足尾の山の人の声 渡良瀬越えて 葛飾へ



早苗田に 薰風涼し 東北道
みどり市に ふさわしき緑 新市名

バスツアー うれし緑の 草木ダム
ハンドルの 捌き S字の 若葉道

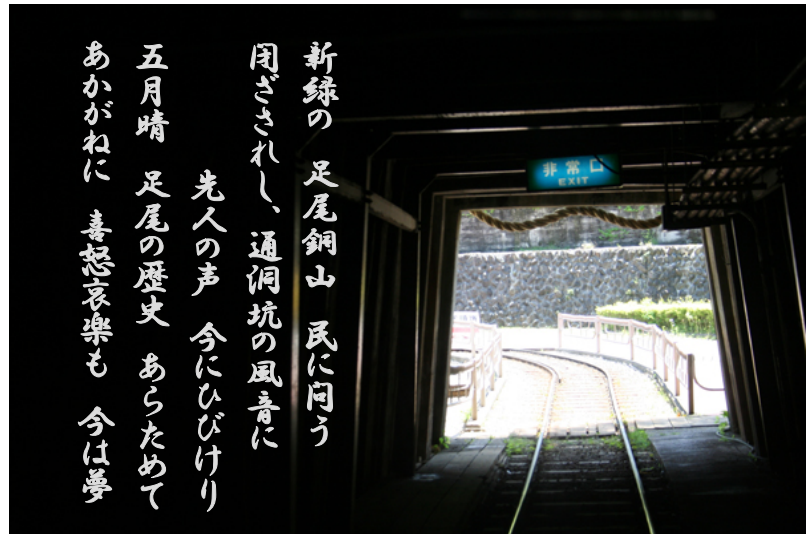
帰りバス 今日の楽しさ 夢にみる

■草木ダム ■みなさんのアンケートから■

- 葛飾の治水の原点が、渡良瀬川や利根川の上流の治水にあると知り、感謝の念を持ちながら見学しました(ほか多数)。
- 全体のダムの様子を見ることができました(展望台から見るのだけでは分からない)(初参加)。
- 東京低地に住む私たち・・・、守られて生活していることを実感させられました(初参加)。
- 快晴、おだやかなダム、白く立ち上る噴水、バスにおおいかぶさるような緑の木々、WOW イイ気分。
- ダム湖の周辺は新緑で気持ちよく、バスでまわったのは大変良かった(ほか多数)
- 中国の詩人、王安石が「万緑叢中紅一点—初夏の風物にはそう多くを必要としない。したたる青葉に一輪の赤い花があれ名よ—」という意味の詩を詠んでいたのを思い出しました。
- 人間と自然との共存はあるか？ ダムは人間の知恵ですか？ すべて疑問に思います。それにしても美しいみどり。
- 右に谷、左に満水の水、これぞダムを満喫
- 緑のトンネル、一巡してくれて、眼に最高の贈り物

■足尾銅山観光 (あ)かがねは (し)ぜん破壊の (お)築源

- 坑道の中に入り、改めて採掘の大変さを知り、繁栄・衰退・・・時代を感じました。
- 栄えた頃の一端とご苦勞の一端をかいま見たようでした。廃墟は見る度に棟が詰まる思いです。
- トロッコ電車にはじめてのり感激しました。
- 昔の方は辛抱強く、ガンバッテ働いていたのですね。何事もやり過ぎは、後のつけがまわって来ますね。
- 坑内がひくく、水の出ているのにおどろき。
- 豊かな生活の裏にはこの足尾鉍毒事件を忘れてはいけないと思いました。
- 坑道の総延長1,234kmという長さに驚きました(ほか多数)。



新緑の 足尾銅山 民に向う
 用ざされし、通洞坑の風音に
 先人の声 今にひびけり
 五月晴 足尾の歴史 あらためて
 あかがねに 喜怒哀楽も 今は夢

■小滝坑



産業の 隆盛終り 緑燃ゆ
 渡良瀬の 源流山奥 山藤かな
 木の間より 漏れくる蟬の 声やさし

新緑の 涼しささそう 小滝坑
 鉍山の 若木の緑 目にしみて
 一日の 疲れをどった ふうのあと

- 廃坑からの冷気にビックリしました。機会があったらこちらから足尾に抜けるドライブをしてみたい。
- 仕事はなくてもふる里なんだなあと思いました。
- 時代の流れを感じ、それでもいつでも、人は一生懸命生きて、今に命をつないできたのですね。
- 庚申川の水がきれいで、心まで洗われた。
- 初坑の口には感慨深いものがありました。
- 栄枯盛衰、世の常とは言い

ながら感慨深いものがありました。此所は特に印象深く、良いところに御案内下さいました。

- 足尾銅山に三坑あったことを初めて知りました。
- 生活の跡と自然の姿が一緒になって迫ってきてかなり感動しました。

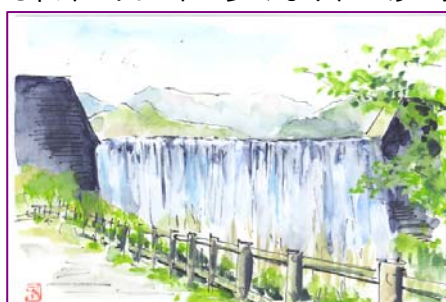


■銅親水公園

- 現場の「砂防ダム」や砂防や植林に励む人々を目のあたりにして本当の「砂防」の大切さがよく解りました。今後も葛飾をお守りください。
- 廻りの景色に、下は掘って、上は木をからしってしまった影響に唖然としました。
- 一般にダムといえば水、砂防ダムは縁の下の力もち。
- 砂防ダムの役割がいかに大きいかを勉強した。上流での対策がいかに大切か痛感。
- 煙害のすさまじさと復興の努力に感動。
- もう少し時間があれば山頂へ行きたかった。
- 松木の山に木が多くなり、土砂が少なくなって来たとの話を聞き(職員の方より)、木の大切さを改めて認識させられた。昨年4月に植樹に来た時より山の緑が増えた様に見えた、一層の増加に陰ながら期待したい。



渡良瀬に 響む鐘の音 いにしえに
誘い遊び ひとり偲ばん
渡良瀬の 一滴の水 民を潤す
渡良瀬の 映り川面 緑なり



画 田口峯子さん

■その他・自由欄

- 見た！聞いた！食べた!!—だけではもったいない。テーマを持って事前学習して出掛けた博物館バスツアーですもの、次につなげなくてはもったいない。
- 間藤駅、一時間に一本の美しい車輜も印象的でした。
- 事前学習があり、観光ではないツアーを認識した(初参加)。
- 青い空、白い雲、新緑の山々、自在にからみつき満開の山藤、民家の近くには薄紫の桐の花、ニセアカシアの白い花、時々山法師の白い花、とても幸せな時間を過ごすことが出来ました。感謝!! 帰路、朴の白い大きな花も診られました。



TOUR DATA		
時間	経過	滞在時間
7:50	博物館出発	
8:03	四つ木IC	
8:18	川口JCT	
8:45	羽生PA	8分
8:55	利根川を渡る	
9:03	佐野藤岡IC	
10:13	道の駅くろほねやまびこ	15分
10:42	草木ダム	10分
11:20	足尾銅山観光	100分
13:12	小滝坑	25分
13:55	銅親水公園	55分
14:52	大畑沢緑の砂防ゾーン	10分
15:02	龍蔵寺(車窓)	
15:07	間藤駅	10分
15:36	清滝IC	
15:58	宇都宮IC	
16:27	佐野SA	18分
17:23	川口JCT	
17:50	博物館到着	
内山観光バス：フェニックス号 ドライバー 大槻義文 さん 走行距離：350km 応募55人キャンセル4名 参加46名 参加費3200円うち見学実費880円		

- 機会があれば山梨・静岡の富士川上流を希望します(初参加)。
- 砂防ダムがたくさんみられ、楽しい旅でした。

■その他、多くのご意見ご感想をいただきました。ちなみに女性○、男性●です！
ご自分の記事おわかりになりますか？■

ツアー後記

昨年大好評を博したツアー、コースを変えて渡良瀬川を溯りました。草木ダムに満々と湛えられた水の豊かさ、そして終始降り注ぐ新緑のシャワーのなかで触れ得た、足尾銅山史の光と影。小滝坑・・・圧倒的な迫力の足尾砂防ダムと、山肌を縫うように作業にいそむ人々の姿。治山・治水を実感した1日でした。次回の再会？まで、お元気で過ごしてください。

担当学芸員 橋本直子 博物館専門調査員 富澤達三 補助 山本 俊



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101 FAX 03(5680)0849